

造園科学科

1. 教育研究上の目的

本学科は、庭園文化を踏まえ、人間と自然の調和共生社会の実現をめざし、都市から田園、自然地域にわたる国土の環境と景観を保全・活用し創造するための、調査・計画・設計・施工・管理・運営及び材料に関する理論と応用を教授し、豊かな感性とデザイン力、確かな倫理観を持つ造園家、造園技術者を養成する。

2. 教育目標

造園科学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 都市環境から自然環境に至るまでの育成と保全に科学的かつ実践的に対応できる者
- (2) 新たな環境を計画的、デザイン的に創成できる者
- (3) 技術と実践力をもって自然環境の利活用を生態技術的、環境芸術的に処理できる者

3. ディプロマ・ポリシー

造園科学科は、ランドスケープの専門家すなわちみどり環境の創造と保全を担うスペシャリストとして、人間と自然の共生した空間や環境の実現のため、次のような能力が身につけている学生に対し、学位を授与します。

- (1) 地域レベルから地球レベル、ならびに地域社会から国際社会に至る幅広い視点から造園学を捉え、その沿革、社会的使命、将来の目標や課題を理解し、その発展に貢献できる能力を身につけている。
- (2) 社会に対して造園家としての使命感と責任をもって取り組める能力を身につけている。
- (3) 幅広い造園学の対象領域とそれらを司る原理や、造園空間の特徴、構成要素、自然のシステム、社会や経済のシステム、情報などを理解し、造園学を学ぶための基礎能力を身につけている。
- (4) 造園家として必要な言語、図面等による表現能力、コミュニケーション能力を身につけている。
- (5) 造園空間創成に向けて問題や課題を調査・分析し、それらの解決手段の総合化技術とその具現化手法であるデザイン技術を身につけている。
- (6) 造園空間の創成に必要な植物について、その種類、生理生態、美観的特性を理解し、植栽から育成管理に至るまでの技術と手法を身につけている。
- (7) 造園空間を創成するための工学的知識、計測技術、建設・施工にかかわる具体的手法を身につけている。

- (8) 多様な主体との協働・連携により課題解決に取り組める能力を身につけている。
- (9) プロジェクトを計画的・組織的に推進する実務的・実践的な能力を身につけている。

4. カリキュラム・ポリシー

造園科学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、基礎的な科目から、より専門的な環境計画・設計分野、ランドスケープ資源・植物分野、景観建設・技術分野の3分野に至る科目および専門科目を総合化する科目を配当し、これに従い教育を行う。

- (1) 地域環境を構成する植物、土、水の基本要素にかかわる基礎教育、地域環境問題に関する見方や地域環境科学の学習への動機づけ、造園を学ぶために必要な感性を引き出すことをねらいとする基礎科目として、「造園科学概論」、「造園体験演習」などを配当
- (2) 造園学における計画や設計に関わる基本理論と専門理論、造園空間創成のための手法論を修得する環境計画・設計分野の専門科目として、「造園計画学」、「近代造園史」などを配当
- (3) 生物や生態に関わる基礎知識、造園植物や造園植栽、緑地生態などに係わる基礎理論と専門理論、造園空間創成のための技術論などを修得するランドスケープ資源・植物分野の専門科目として、「植物の生活と活用」、「造園樹木学」などを配当
- (4) 造園建設・施工に関わる基礎理論と専門理論、造園空間創成のための技術論などを修得する景観建設・技術分野の専門科目として、「造園工学基礎演習」、「測量学」などを配当
- (5) 造園学を構成する3つの専門分野を統合し、造園学を横断的に理解しつつ、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークを軸に学修を展開することにより、実践的・実務的な応用力を修得する総合化科目および学際領域科目として、「造園植栽演習」、「造園工学演習」、「専門特化演習（一）（二）」などを配当

5. アドミッション・ポリシー

造園科学科は、本学のアドミッション・ポリシーを踏まえ、「環境」と「緑」の分野に挑戦するため、次のような学生を求めています。

- (1) 自然、緑（みどり）、生きもの、環境、まちづくり、景観、デザイン、生活、健康、文化、歴史などへの興味と、自然科学・社会科学・人文科学の知識を有している。
- (2) 人間と自然が共生した空間や環境を実現するための植物・生物・地域・歴史に関する知識と、論理的思考方法、コミュニケーション能力などの技術を備えた造園家、造園技術者として、地域社会へ貢献することを目指している。